

## V 資料編

本テーマにおける審議の中で、各委員から、まとめに掲載した内容に至る背景や現状等に関する多くの意見等が出されました。こういった意見等は、今後、様々な場面や形態で連携を進めていく上で、参考ともなる内容であると考え、資料編として掲載しました。

連 携 に つ い て	<p>(行政内の連携)</p>
	<p>○ 保育所の園児は、いずれ小学校に入学するので、福祉課と教育委員会は連携を密に取っていく必要がある。</p>
	<p>○ 子育て支援を広く考えれば、教育委員会内の連携はもちろん、教育委員会と福祉行政、労働行政との連携はこれから特に必要である。</p>
	<p>○ 役所の中の連携が一番とれていないと思う。教育委員会には、社会教育と学校教育があるが、これに福祉が絡まないと子育てはうまくいかない。</p>
	<p>○ 行政は縦割り色が強い。しかし、最近は総合的に施策を推進するような課の編成やシステムづくりが進んでいる。</p>
	<p>(学校との連携)</p>
	<p>○ 中学生が体験学習・職場体験等で保育所にやってくるが、イベントとして終わるのではなく、保幼小中の更なる連携につながる取組が必要である。</p>
	<p>○ 学校が社会教育との関係を考えているのは、近くの地域団体、公民館と協力していきたいことと、多くの方々に学校に対して援助をいただきたいことである。また、同窓会等の活性化を行い、キャリア教育やボランティア教育のためのネットワークをつくりたいと考えている。</p>
	<p>○ 保育関係の短大等では、地域の子育て支援に力を入れているところもある。その学校との連携の中に専門機関を含めて、いろんなところとネットワークができると良い。</p>
	<p>○ 大学としては、大学がもつ教育資源を生かしたプログラムを提案し、学校との連携を推進したい。</p>
<p>○ 学校に対する行政の支援は進んでいるが、先生方が何を支援してほしいかなど、何を本当に望んでいるのか十分理解できていない。</p>	
<p>(地域・団体・企業等との連携)</p>	
<p>○ 地域や団体・企業等とが連携した取組は、プログラムによっては子育て支援の大きな力になる。</p>	
<p>○ 地域の団体と企業などが協働し、福祉や環境などの様々な事業を行っている。学校もそれらの事業に対して場の提供等をしていくことも必要である。</p>	
<p>○ 子どもの育成は、地域の大人がやるべきだと思うが、協力が得にくいこともあるので、団体が手を組まないといけない。</p>	
<p>○ 企業はたくさんのノウハウを持っているので、それを活用するために企業を入れる・巻き込む、そのようなことを考える必要がある。</p>	

	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携のポイントはパートナーシップである。同等の立場で連携することにより、参加意識から参画意識へと高めていくことが大切である。</li> <li>○ 人と人との絆が崩壊し、無縁社会化現象が進んでいる。子どもを囲んでみんな連携することにより、真ん中にいる子どもが幸せになり、連携するものも幸せになるなど、絆の復活が期待される。</li> <li>○ やる気とやる気をつなぐことが連携である。</li> <li>○ あるアンケートで、「この百年で何に驚きましたか」という問いに「家族が崩壊したこと」という結果があった。家族を再生する・補うような連携も大事である。</li> <li>○ 連携については、地域と家庭と学校がそれぞれの役割を果たしているということを前提にして議論が始まる。</li> <li>○ 地域の中で様々な取り組みが行われ、それぞれが成果を上げている。これからは、それぞれのつながりが対等の形でお互いに連携しながら、子どもを見ていくという視点に立った取組が必要である。</li> </ul>
<p>現 代 的 課 題 解 決 に 向 け て</p>	<p>(父親や高齢者の力を活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 超高齢化社会を迎えて、子育て支援に高齢者を参画させ、その力をどう生かすかを考える必要がある。</li> <li>○ 三世代交流が増えているが、まさに子育て支援に祖父母世代の力は非常に大きなものになる。</li> <li>○ 動き出したいというお父さんが増えているので、そうした人たちを引っ張り出す。男性や若い人たちが入るだけで、イベントの質はぐっと上がる。</li> <li>○ 男の子、男性を元気にしたい。「子育て」というと出てこないが、「一緒に遊ぼう」というと出てくる、伝え方ややり方を考える必要がある。</li> </ul> <p>(学校や社会教育施設を活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共図書館が指定管理や委託になっているが、みんなが学べる図書館になることを期待したい。</li> <li>○ 学校の中に核をつくり、地域を巻き込んで一緒に動く姿が理想である。</li> <li>○ 学校が開かれるのは、教育内容やハード及びソフト面ということだろうが最終的には教職員の意識である。</li> <li>○ われわれが育ってきた頃の「地域」はなくなってきている。放課後、学校に地域の方が集まって子どもたちと様々な交流をすることが、子どもを地域に返すことになる。</li> </ul> <p>(地域の教育力を活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成の大合併で市町村がかなり減り、それ以上に減ったのが公民館である。これが、社会教育、特に公民館の大きな停滞や後退をもたらすのではないかと危惧する。</li> </ul> <p>(地域の教育力を活用して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の方が学校に来て子どもたちとふれ合うことに意義がある。また、地域の方が学校にスタッフとして入ることも重要である。地域の大人が子ども</li> </ul>

	<p>や先生たちと顔見知りになればなるほど活動にも広がりが出てくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会の構造が変わってきているので仕方ないが、地域の力が落ちている。地域のあり方が変わってきているというところを何とかしたいと思う。子育てと教育の取組を通して再生させるべきである。</li> <li>○ 長屋的、寺子屋的な昔ながらの地域では、子どもを叱る・教育する環境や親同士の間人間関係が豊かになり、地域全体で子どもたちを育てる活動へと広がっている。</li> <li>○ 地域が学校を支援する体制は整っているが、学校の先生がそれに関わろうとしてくれない課題がある。コミュニティに関わることによる教師の負担増という指摘もあるが、一番のねらいは学校のスリム化である。</li> <li>○ コミュニティ・スクール推進の成果として、学校に対する苦情が減った。地域も参画しているから責任を共有していると考えられる。厳しい意見も多いが、学校にとってはこのような意見もありがたい。</li> <li>○ 子どもは家庭や地域が育てるものであって、学校は保育園ではない。地域は、保護者や学校を支援していくことが必要である。</li> <li>○ 社会教育（団体等）がいろいろなことをやっているが、イベント屋になっていないかと心配だ。</li> </ul> <p>（企業等の力を活用して）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業のを借りると、行政や団体等だけではやれないようなことが可能になる。今後は、このような良い点を伝えていく必要がある。</li> </ul> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在は、行政や社会教育関係団体等による子ども支援が個別に行われている。それぞれの活動を学校・子ども・家庭にもアピールして連携を深めていかなければいけない。</li> <li>○ 子育て支援というのは小さな子どもを持つ親と子どもだけでなく、小中高校まで繋がっていくので、小中高大学生まで関わるような事業展開を考えたい。</li> <li>○ 皆、子どものために支援したいと思っているし、応援したいと思っているが、何をどうすればいいのかイライラしている。ネットワークすること、連携することを具体的にしていきたい。</li> <li>○ 最近の子どもは、学校の先生と社会教育指導者の前では態度が違う。学校の先生と社会教育指導者とが話し合う場面を設定する必要がある。</li> </ul>
コ ー デ ィ ネ ー タ ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コーディネーター役は教員ではない人もできるようにする必要があり、そのような人を養成していくことが必要である。</li> <li>○ 学校を支援しようとしているが、教職員の意識が変わらない現状がある。また、管理職が率先して推進しているところは進んでいる現状もある。やはり、コーディネーターがポイントである。</li> <li>○ 連携には人が介在する。地域には元気で意欲のあるキーマンがいるので、人材発掘・育成が必要である。</li> </ul>

<p>こ つ い し て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コーディネーターの役割として、地域にある人的・組織的な力を組み合わせて地域課題の解決に貢献する必要がある。</li> <li>○ おやじの会や有志の会がコーディネートする取組が広がってきている。</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども育成のためのイベントや取組も大事だが、親や子ども自身が努力すること・自立への道筋を示すことも大事である。周りが「してあげる」ことが多く、親や子ども自身も努力しなければならない。</li> <li>○ 子どもは親の鏡であり地域の鏡でもあるので、子どもが非行したら地域が悪いということを考えて、地域ぐるみで取り組む必要がある。</li> <li>○ PTAを変える、地域を変えるという思いで、地域の絆づくりを行う取組を実施している。一番大切なのは学校と地域ではなく、地域の中に学校があるということである。地域の中に学校があるのであって、家庭も地域の中にあるので地域力をつけることが必要である。</li> <li>○ 改めて、学校が地域の核になる時期が来ていると感じる。学校は、開かれた学校づくりを推進し、地域に悩み等を打ち明け、それを地域は自分のこととして受け止めるようなシステムづくりが必要である。</li> <li>○ 教員はもっと地域に出なさいと言われ、地域に出れば喜ばれるが、「全ては出来ない」と言うことも必要である。</li> <li>○ 地域が変わってしまって、今までうまくいっていた方法がうまくいくとは限らない。</li> <li>○ 行政は施設をめったに貸してくれない。公共施設を会合や事業等で使えることは予算面等で非常に助かる。</li> <li>○ 三世代同居が出来るような施策・助成があったらよいと思う。</li> <li>○ イベントも広い意味では教育だろうが、教えるべきことは教えるのが教育であり、それが薄れてきている。</li> <li>○ 教育と福祉が表裏一体となってやっていかなければいけないが、曖昧になっている。また、就学前後の子育てについては、やっぱり教育として位置づけ、きちっと教えるべきことは何なのか、それを指し示さなければいけない。</li> <li>○ 学校から必要とされる社会教育でなかったら、「教育委員会に社会教育はなくてもいい」というぐらいに思っている。教育委員会の中で学校教育と社会教育の連携についてもっともっと語られたらいいと思う。</li> <li>○ 一番の課題は、子どもが生活している身近に自分のモデルがないことである。</li> </ul>

## VI 福岡県社会教育委員名簿

任期：平成21年7月7日～平成23年7月6日

◎は議長、○は副議長

	氏名	所属・職名
学校教育関係者	伊豆 諒二	(社)福岡県私立幼稚園振興協会会長
	田中 一郎	福津市立神興東小学校長
	田中 妙子	福岡県立香住丘高等学校長
	麥田 猛美	苅田町立苅田中学校長
	○森本 精造	元飯塚市教育委員会教育長
社会教育関係者	坂井 恵亮	福岡県PTA連合会長(平成22年7月7日まで)
	浅井 孝	福岡県PTA連合会長(平成22年7月8日より)
	池田 龍男	福岡県子ども会育成連合会長
	大野 泰志	福岡県公民館連合会専門部長(平成22年7月7日まで)
	木下 勝範	福岡県公民館連合会専門部長(平成22年7月8日より)
	木下 幸子	福岡県地域婦人会連絡協議会長
	古賀 弥生	アートサポートふくおか代表
	正平 辰男	福岡県社会教育委員連絡協議会長
	吉松 良徳	糟屋郡須恵町まちづくり課長
家庭教育関係者	上村 初美	公益社団法人福岡県保育協会保育士会長
	大谷 清美	NPO法人「チャイルドケアセンター大野城」代表理事
	川島久美子	久留米大学非常勤講師
	濱砂 清	ざ・おやじコミュニティ事務局長
学識経験者	◎井上 豊久	福岡教育大学教授
	大島 まな	九州女子短期大学准教授
	緒方 泉	九州産業大学美術館学芸室長
	小西 清則	福岡県人権・同和教育研究協議会長
	佐藤 倫子	Edu(エデュ)代表
	末寄 雅美	九州大谷短期大学准教授
	林田 スマ	大野城まどかぴあ男女平等推進センター所長
	武藤 元美	福岡情報ビジネスセンター代表取締役
	安元 文人	西日本新聞社論説委員会副委員長